

さ ふ ら ん ノ 栽 培

刈 米 達 夫

T. KARIYONE: Cultivation of *Crocus*

さふらんハ我國ニ栽培サレル藥草中最モ重要ナモノノ一デアッテ年産額十萬圓内外、昭和 7 年ノ産額ハ次表ノ通りデアル。

縣	數 量 (匁)	價 格 (圓)	反 別 (反)
廣 島	69000	39419	731
兵 庫	50579	15895	106
佐 賀	29320	6535	103
岡 山	23420	8366	41
全 國 總 計	145278	83037	1096

さふらんハ 9 月ニ球根ヲ植付ケ 11 月開花時ニ雌蕊ヲ採收シ乾燥シテ藥用ニ供スルモノデアッテ、收穫ニ老幼者ノ勞力ヲ利用シ得ルコト、桑其他ノ間作ニ適スルコト等ハ栽培上有利ナ點デアル。其缺點トスル處ハ相場ノ高低甚ダシキコト及ビ病害ニ犯サレ易イコトデアル。然シ乍ラ其ノ栽培調製ニ習熟スレバカナリ確實有利ナ作物デアル。

現在本邦ノさふらん主產地ハ前表ニ見ラレル通り廣島縣デアルガ今カラ 10 年程前ハ兵庫縣下ガ最モ盛デ同縣ノ年産額三十萬圓ニ及ンダコトモアル。又其前今カラ 15 年程前マデハ神奈川縣ガ主產地デアッタ。斯ノ如ク產地ガ移動スルノハさふらんヲ同一個處ニ連作スルトキハさふらん特有ノ腐敗病ガ發生スルタメデアッテ一度之ニ侵サレルト球根腐敗シ未ダ之ヲ救ヒ或ハ豫防スル確實ナ方法ガ無イ。從テさふらんノ產地ハ今マデ 7~10 年ヲ週期トシテ移動シテ居ル譯デアル。コノ腐敗病ハ *Bacillus Croci* MIZUSAWA トイフ菌ノ寄生ニヨルモノデアッテ此ノ菌ハ神奈川縣農事試驗場技師水澤芳次郎氏ノ發見ニカ、ル。(神奈川縣立農事試驗場成績、大正 10 年 4 月)

さふらんノ栽培ハ歐洲デハ數年間定植ノマ、デ開花セシメルヲ普通トスルガ本邦デハ從來之ヲ冬作物トシ 5 月ニハ一旦根ヲ掘リ上ゲテ居ル。是レ土地利用上並ニ根球ノ腐朽ヲ少ナカラシムル様デアルガ粕壁ノ藥用植物園場デ若林氏ノ實驗ニヨレバ 2 年定植ハ甚ダ良イ成績ヲ舉ゲテ居ル。同一種球ヲ以テ植付初年

ノモノト定植2年月ノモノトヲ比較スルト、定植區ハ約10日早ク開花シ收穫量モ2倍以上ニ達スル。開花期ノ早イコトハ實際栽培上ニ於テ初年區ト併植シテ收穫ノ勞力ヲ均分シ得ルノ利益ガアル。又定植法ニ於テモ大豆、小豆等ノ夏作ヲ植エルニ毫モ差支無イ。只病害ニ因ル缺株率ノ多イコトハ免レヌ所デアル。



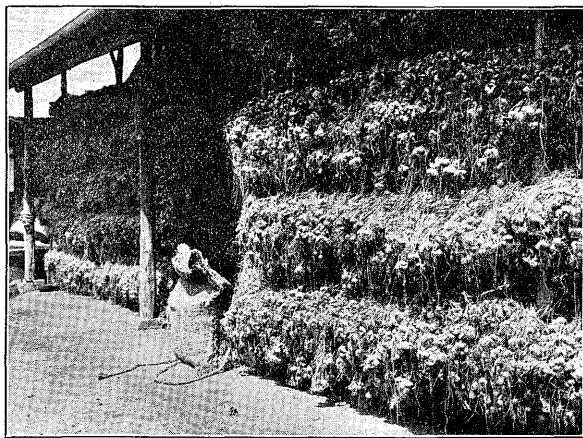
第 1 圖 さふらん畑 (神奈川縣足柄上郡中井村)

さふらんノ植付ハ通常 9 月中～下旬株間約 10 cm×10 cm、深サ約 10 cm トスル。球根ノ重量ハナルベク 15 g 以上ノモノヲ選ブ。此程度ノ球根デアレバ大抵 3 花ヲ生ジ、球根ガ大ナレバ大ナル程花ヲ多ク生ジ從テ收穫量モ多イ。栽培者ハ球根ノ重量 1 匁ヲ増ス毎ニ 1 花ヲ増スト言ッテ居ルガ良ク言ッタモノデ大體其位ノ割合デアル。開花ハ大抵 11 月中ノ約 1 個月間ニ亘ルガ最盛期ハ 10 日位ノ間デ大部分ハコノ間ニ開花スルカラ收穫ハ甚ダ忙ガシイ。さふらんノ製品ハ色澤ヲ最モ尊ブ。從テ花粉ノ附着スルコトヲ忌ム故ニ最良ノ方法ハ開花初日ノ花カラ現場デ「ピンセット」ヲ用ヒ花柱ノ中邊カラ採ルノデアルガ稍々大面積ノ栽培ニナルト現場ノ採收ハ困難デ、通常朝花ヲ摘ミ籠ニ入レテ持ち歸リ屋內デ摘葎ヲ行フ(第 2 圖)。栽培者ノ談ニヨルト雌葎ハ開花後モ生長ヲ續ケルカラ開花初日ノ花ヲ採ルノハ損デ開花翌日ニ採ル方ガ收量ガ多イソウデ、コレモ尤モナコトデアル。摘葎ハ花柱ノ下部淡色ノ部分ヲ除キ中邊以上ノ

濃色ノ部分ノミヲ採ル。之ヲ紙上ニ薄クヒロゲ炭火ヲ用ヒ 50~60° デナルベク速ニ乾燥スル。第 2 圖ハ養蠶籠ヲ利用シ之ヲ 6 段ニ載セル簡單ナ乾燥器ヲ用ヒテ居ル。乾燥後少時室内ニ放置シ雌蕊ガ折レヌ程度ニ濕氣ヲ戻シテカラ罐又ハ瓶ニ入レル、コレダケノ手數ヲ經テ 1 反歩カラノ收得量ハ 1200~1500 g 即チ 2~2.5 斤デアル。其 1 斤ノ賣値ハ現在 54 圓、昨冬 62 圓、一昨冬 20 圓ト



第 2 圖 さふらんノ調製



第 3 圖 さふらん球ノ貯藏

粕壁圍場デ之カラ澱粉ヲ試製シタガ良質ノ澱粉ガ得ラレル。此ノ澱粉ハ球形デ直徑主トシテ 10~15 μ デ非常ニヨク粒ガソロッテ居ル。

さふらんノ品質ハ其色澤ト香氣ヲ主トスル。其色ハ Crocin トイフ「カロチ

イフ様ニ非常ニ變動ガ多イ。小生ノ知ル範圍ニ於テハ最高値ハ大正 6 年ノ 120 圓低値ハ一昨年ノ 12 圓トイフ値段デアッタ。

花ガ咲キ終ルト葉ハ急ニ延ビテ來ル。寒中ニ追肥ヲ充分ニ與ヘテ種球ノ増殖ヲ促スト 5 月頃迄ニ前年植付ケタ種球ノ 3 倍位ノ數ニナツテ居ル。種球ヲ淺ク植ヘ過ギルト此際、小球ヲ多數生ジ不得策デアル。斯シテ 5 月中旬葉ガ枯レカ、ル頃球根ヲ掘リ上ゲ土ヲ拂ヒ數株ヲ葉デ縛シ陰處ニ秋マデ吊シテ置ク（第 3 圖）。10 g 以下ノ小球ハ種球トシテ不適當デアルカラ更ニ 1 年植ヘ置キ肥大サセルカ或ハ通常ハ廢棄セラレル。

ノイド」色素デアル。生薬ハ紅色ヲ呈スルガ水浸液ヲ稀釋スルト純黄色ヲ呈シ重クロム酸加里水溶液ノ色トヨク似テ居ル。日本薬局方デハ生薬ノ 15000 倍ノ水浸液ノ色が重クロム酸加里 0.05 % 水溶液ヨリモ濃色ヲ呈スベキコトヲ規定シテ居ル。さふらんノ香氣ハ Picrocrocin トイフ配糖體ガ加水分解シテ芳香成分ヲ生ズルニ因ル。故ニさふらんハ新鮮品ハ香氣薄ク時日ヲ經過スルニ從ヒ香氣ヲ生ズル。アマリ古クナルト又香氣ガ失セル。我國ノ需要家方面(賣藥製造)デ「スペイン」産さふらんガ香氣ガ良ク到底日本産ハ及バスト言ッテ居ル人モアルガ、コレハ歐洲品ガ印度洋ヲ經テ日本ニ來ルマデニ相當ノ時日ヲ經過スル爲ニ適當ニ醱酵シテ香氣ヲ生ズルノデアッテ日本産ノ市場品ハコレニ較ベルト新鮮デアル爲ニ香氣ガ薄イ様ニ考ヘラレテ居ルノデアルマイカト國産さふらんノ爲ニ一言辯ジテ置ク。

げんのしょうこニ就テ

邦産藥用植物生産狀況調査 (其四)

津村研究所 木村 雄 四 郎

Yushiro KIMURA: Ueber die japanische Arznei-drogen, ihr Anbau,
ihr Einsammlung und Zubereitung etc. (IV):

Ueber *Geranium nepalense* SWEET.

げんのしょうこ *Geranium nepalense* SWEET. (*G. Thunbergii* SIEB. ET ZUCC.)
ハ廣ク我邦各地ニ野生シ古來民間ニ於テ所謂痢病ノ妙藥ニ供サレテキルコトハ其げんのしょうこ(現ノ證據)ノ名稱ニ徴シテモ明カデアルガ、其他藥効ニ由來スル方言モ亦頗ル多ク我邦ノ民間藥トシテ如何ニ交渉多キカヲ知ルコトガ出來ヤウ。

今、東京女子藥學專門學校ノ調査ニナル郷土ノ民間藥調査表カラげんのしょうこニ關スル方言ヲ摘記スルト次ノヤウデアル。

先ヅ其藥効ニ由來スル方言ヲ見ルニりびゅうさう(山口縣厚狹町、静岡縣三島町)、りびゅうぐさ(沼津市、群馬縣碓氷郡秋間村)、せきりぐさ(石川縣津幡町)、しきぐさ(山梨縣西八代郡下部村)、ちびゅうぐさ(山梨縣中巨摩郡源村)、ちびゅうさう(和歌山縣伊都郡山田村)、てきめんさう(長野縣伊那町)、たちまちさう(鳥取縣倉吉町)、いしゃいらす(福井縣大野郡下庄村、長野縣伊